

平成24年度登録販売者試験問題

茨城県

(平成24年9月30日 午後)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- この試験問題における「薬事法」は、薬事法の一部を改正する法律（平成18年法律第69号）による改正後の薬事法とします。
- 試験問題は問61から問120までの60問で、解答はすべて答案用紙に記入してください。1つの解答欄に複数解答した場合、その箇所は無効とします。
- 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者は、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 答案用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払ってください。
- 退場する時は、答案用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従ってください。
- この問題用紙は持ち帰ることができます。

【 答案用紙への記入上の注意 】

- ①受験番号に誤りがないことを確認し、氏名、フリガナを記入してください。
- ②マークは、HBより濃い鉛筆で、解答の数字の枠の中を塗りつぶしてください。
- ③マークを消す時は、消しゴムで完全に消し、消しくずはよく払ってください。

マークの仕方

良い例

悪い例



薄い

短い

細い

はみでる

主な医薬品とその作用（40問）

【問61】 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜは単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、通常は、数日～1週間程度で自然寛解する。
- b かぜの原因のほとんどはウイルスの感染であるが、その他、細菌の感染や、まれに冷気や乾燥等の非感染性の要因による場合もある。
- c かぜとよく似た症状が現れる疾患は、喘息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ等多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき又は悪化するようなときは、かぜではない可能性が高い。
- d 発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合であっても、効果的に症状の緩和を図るため、常にかぜ薬（総合感冒薬）が選択されるのが最適である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問62】 かぜ薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a くしゃみや鼻汁を抑えることを目的として、アドレナリン作動成分が配合される。
- b グリチルリチン酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
- c 塩化リゾチームは、鶏卵アレルギーがある人への使用を避ける必要がある。
- d 咳を抑える成分のうち、リン酸ジヒドロコデインは依存性がない成分である。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問 6 3】 解熱鎮痛薬の配合成分であるアスピリンに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害が起こりにくいとされている。
- b アスピリンは、一般用医薬品では、小児に対してはいかなる場合も使用しないこととなっている。
- c アスピリンは、医療用医薬品では、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬の成分としても用いられている。
- d アスピリン喘息は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分で生じる可能性はない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 6 4】 次の成分のうち、一般用医薬品に配合されているピリン系解熱鎮痛成分はどれか。

- 1 イブプロフェン
- 2 イソプロピルアンチピリン
- 3 サザピリン
- 4 アセトアミノフェン

【問 6 5】 眠気を促す薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分である塩酸ジフェンヒドラミンは、脳内におけるヒスタミンによる刺激の発生を抑えるため、眠気が促される。
- b ブロムワレリル尿素は、脳の興奮を抑え、痛み等を感じる感覚を鈍くする作用を示す。
- c ブロムワレリル尿素は、反復して摂取しても依存を生じるおそれがない。
- d 生薬成分のみからなる鎮静薬であれば、複数の鎮静薬の併用や、長期連用は避ける必要がない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

【問66】 眠気防止薬の主たる有効成分であるカフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カフェインは、心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸^きが現れることがあるが、心臓病の診断を受けた人であっても服用を避ける必要はない。
- b カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋^{ぼうこう}を収縮させる働きがあり、尿量の減少をもたらす。
- c カフェインは、胃液の分泌^こを亢進させる作用があり、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心^{おしん}・嘔吐^{おう}）が現れることがある。
- d 吸収されて循環血液中に移行したカフェインの一部は、胎盤関門^{きん}を通過して胎児に到達することが知られている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

【問67】 鎮暈薬^{うん}（乗物酔い防止薬）に配合される抗コリン成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 眠気を促すほかに、散瞳^{どう}による目のかすみや異常なまぶしさを引き起こすことがある。
- b 中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させる。
- c 臭化水素酸スコポラミンは、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が長い。
- d 臭化水素酸スコポラミンは、消化管から吸収されにくく、他の抗コリン成分と比べて脳内に移行しにくい。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問68】 咳^{せき}や痰^{たん}が生じる仕組み及び鎮咳去痰薬^{がい たん}の働きに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 咳^{せき}は、気管や気管支に何らかの異変が起こったときに、その刺激が末梢神経系に伝わり引き起こされる反応である。
- b 咳^{せき}はむやみに抑え込むべきではないが、長く続く咳^{せき}は体力の消耗や睡眠不足をまねくなどの悪影響がある。
- c 呼吸器官に感染を起こしたときは、気道粘膜からの粘液分泌が減るが、その粘液に気道に入り込んだ異物や粘膜上皮細胞^{がい たん}の残骸などが混じって痰^{たん}となる。
- d 鎮咳去痰薬^{がい たん}は、咳^{せき}を鎮める、痰^{たん}の切れを良くする、また、喘息症状^{ぜん}を和らげることを目的とする医薬品の総称である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

【問69】 次の鎮咳去痰薬^{がい たん}で用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含んでいないものはどれか。

- 1 柴朴湯^{さいぼくとう}
- 2 半夏厚朴湯^{はんげこうぼくとう}
- 3 神秘湯^{しんぴとう}
- 4 麦門冬湯^{ばくもんどうとう}

【問70】 口腔咽喉薬^{くわいんこう}及び含嗽薬^{そう}に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ドロップ剤は、有効成分が早く吸収されるよう、噛み砕いて使用する。
- b 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- c 含嗽薬^{そう}の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤

【問 7 1】 心臓及び強心薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品をいう。
- b 気つけとは、心臓の働きの低下による一時的なめまい、立ちくらみ等の症状に対して、意識をはっきりさせたり、活力を回復させる効果のことである。
- c 心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して、センナ、オウゴン、ジャコウ、ロクジョウの生薬成分が用いられる。
- d 激しい運動をしていないにもかかわらず突発的に動悸や息切れが起こり、意識が薄れてきたり、脈が十分触れなくなったり、胸部の痛み又は冷や汗を伴うような場合には、早めに医師の診療を受けることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問 7 2】 コレステロール及び高コレステロール改善薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コレステロールの産生及び代謝は、主として脾臓で行われる。
- b LDLコレステロールを「悪玉コレステロール」、HDLコレステロールを「善玉コレステロール」と呼ぶことがある。
- c リノール酸、ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされる。
- d 高コレステロール改善薬は、結果的に生活習慣病の予防につながるものであり、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの瘦身効果も目的とする医薬品である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 3】 血液及び貧血用薬（鉄製剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤は、鉄欠乏性貧血に対して不足している鉄分を補充し、造血機能の回復を図る医薬品である。
- b 鉄分は、血小板が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なビタミンである。
- c 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがある。
- d 鉄製剤は、緑茶や紅茶などに含まれるタンニン酸と反応すると、体内での鉄の吸収が良くなる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤

【問 7 4】 血管及び血液に作用する薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合には、使用を中止する必要がある。
- b ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。
- c 銅はヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。
- d ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問 7 5】 婦人薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 日本薬局方収載のサフランを煎じて服用する製品は、冷え性及び血色不良に用いられる。
- b センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- c 温経湯は、手足がほてり、唇が乾く人における、月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹、足腰の冷え、しもやけに適すとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問 7 6】 アレルギー用薬に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 内服薬として摂取されたアドレナリン作動成分は、循環血流に入らず、局所的に作用する。
- 2 塩酸プソイドエフェドリンは、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が弱く、副作用として不眠や神経過敏が現れることはない。
- 3 モノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人が、塩酸プソイドエフェドリンが配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が促進される。
- 4 塩酸トリプロリジンは、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを期待して用いられる。
- 5 グリチルリチン酸モノアンモニウムは、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として用いられる。

【問 7 7】 アレルギー用薬に用いられる成分に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき正しい字句はどれか。

（ ）は、ナス科の草本で、その根に副交感神経系の働きを抑える作用を示すアルカロイドを含む。

- 1 ベラドンナ
- 2 ケイガイ
- 3 ジンコウ
- 4 レイヨウカク

【問78】 アレルギー及びアレルギー用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルゲンを厳密に特定するには、一般用医薬品（一般用検査薬）により検査を行う。
- b 減感作療法は、医師の指導の下に行われるべきであり、一般の生活者が自己判断によりアレルギーの治療目的でアレルゲンを含む食品を摂取することは、症状の悪化や重篤なアレルギー症状を引き起こすおそれがある。
- c 皮膚感染症により、湿疹やかぶれ等に似た症状が現れた場合、皮膚感染症そのものに対処することは適当でなく、アレルギー用薬によって一時的に痒み等の緩和を図ることを優先する必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤

【問79】 鼻炎及び鼻炎用点鼻薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 急性鼻炎の場合、鼻粘膜の肥満細胞からヒスタミンが遊離して、くしゃみや鼻汁等の症状を生じやすくなる。
- b 鼻粘膜の過敏性や痒みを抑えることを目的として、塩化セチルピリジニウムが配合されている。
- c 鼻炎用点鼻薬は、鼻炎などの症状を緩和する働きはあるが、その原因そのものを取り除くわけではない。
- d 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性、慢性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問80】 一般用医薬品（一般用検査薬）とその使用に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 検査薬は、対象とする生体物質を特異的に検出するように設計されており、対象物質が存在する検体であれば、必ず陽性と検出される。
- b 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- c 尿蛋白の検査には原則として早朝尿、尿糖の検査には原則として食前の尿を検体とする。
- d 尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿、妊娠糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。
- e 採尿は、出始めの尿を採取して検査がなされることが望ましい。

1 (a、c) 2 (a、e) 3 (b、d) 4 (b、e) 5 (c、d)

【問 8 1】 胃に作用する薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ジアスターゼは、胃粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている。
- 2 ゲファルナートは、胃粘液の分泌を促す、胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する、荒れた胃粘膜の修復を促す等の作用を期待して配合されている。
- 3 炭酸水素ナトリウムは、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化成分として配合される場合もある。
- 4 合成ヒドロタルサイトは、過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して配合されている。

【問 8 2】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすい人における、胃炎、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に^{おう}適すとされる。まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

- 1 五積散ごしゃくさん
- 2 平胃散へいいさん
- 3 六君子湯りっくんしとう
- 4 大柴胡湯だいさいことう
- 5 人参湯にんじんとう

【問 8 3】 胃腸に作用する薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸ロペラミドは、食べ過ぎ・飲み過ぎによる下痢、寝冷えによる下痢の症状に用いられることを目的として配合されている。
- b アクリノールは、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として配合されている。
- c ジメチルポリシロキサンは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合されている。
- d リパーゼは、過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して配合されている。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

【問 8 4】 注入剤である浣腸薬の用法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 薬液の放出部を肛門に差し込み、薬液だまりの部分を絞って、薬液を押し込むように注入する。
- 2 注入する薬液を人肌程度に温めてしまうと、不快感を生じることが多い。
- 3 薬液を注入した後すぐに排便をしても、効果は十分に得られるので、便意が強まるまで我慢する必要はない。
- 4 半量使用する用法がある場合、残量を後で再使用してもよい。

【問 8 5】 一般用医薬品の駆虫薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カイニン酸は、回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- b サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- c パモ酸ピルビニウムは、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d リン酸ピペラジンは、蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

【問 8 6】 瀉下薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ダイオウが配合された瀉下薬は、妊婦又は妊娠していると思われる女性でも、安全に使用できる。
- 2 カルメロースナトリウムは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを減らすとともに糞便を柔らかくすることによる瀉下作用を目的として配合されている。
- 3 マルツエキスは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分を増し、また、大腸を刺激して排便を促すとされている。
- 4 ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。

【問 8 7】 外用痔疾用薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。

	[成分]		[配合目的]
1	リドカイン	—	局所麻酔
2	酢酸プレドニゾロン	—	抗炎症
3	マレイン酸クロルフェニラミン	—	組織修復
4	塩酸テトラヒドロゾリン	—	止血
5	塩化デカリニウム	—	殺菌消毒

【問 8 8】 胃腸に作用する薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	[成分]		[配合目的]
a	酸化マグネシウム	—	消化
b	ロートエキス	—	抗炎症
c	ゲンチアナ	—	健胃
d	ヒマシ油	—	腸内殺菌
e	スクラルファート	—	胃粘膜保護・修復

	a	b	c	d	e
1	正	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	誤	正

【問 8 9】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

疲れやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渴がある人における、排尿困難、頻尿、むくみ、^{かゆ}痒みの症状に適するとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 麻黄湯 まおうとう
- 2 六味丸 ろくみがん
- 3 神秘湯 しんぴとう
- 4 大黄甘草湯 だいおうかんぞうとう
- 5 麻子仁丸 ましにんがん

【問90】 点眼薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸ナファゾリンは、結膜を通っている血管を拡張させて目の充血を除去することを目的として配合されている。
- b イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- c コンドロイチン硫酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として配合されている。
- d スルファメトキサゾールは、細菌感染による結膜炎やものもらい、眼瞼炎などの化膿性の症状の改善を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問91】 次のうち、ステロイド性抗炎症成分はどれか。

- 1 ブフェキサマク
- 2 塩酸ジブカイン
- 3 フェルビナク
- 4 デキサメタゾン
- 5 ピロキシカム

【問92】 外用薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 インドメタシンは、ステロイド性抗炎症成分である。
- 2 カプサイシンは、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を収縮させて患部の血行を促す効果を期待して配合されている。
- 3 ヒドロコルチゾン^{たん}は、患部の蛋白質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する。
- 4 ヘパリン類似成分は、患部局所の血行を促すことを目的として用いられる。また、抗炎症作用や保湿作用も期待される。

【問 9 3】 抗真菌成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 硝酸ミコナゾールは、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- b シクロピロクスオラミンは、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。
- c ウンデシレン酸は、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- d 塩酸ブテナフィン^{（注）}は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	誤

【問 9 4】 歯槽膿漏^{（注）}の外用薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	[成分]		[配合目的]
a	塩化セチルピリジニウム	—	抗炎症
b	グリチルリチン酸二カリウム	—	殺菌消毒
c	カルバゾクロム	—	止血
d	アラントイン	—	組織修復

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	誤	正

【問 9 5】 一般用医薬品である禁煙補助剤（咀嚼剤^{（注）}）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ニコチン置換療法に使用される、ニコチンを有効成分とする医薬品である。
- 2 1 度に 2 個以上の使用は避ける必要がある。
- 3 妊婦又は妊娠していると思われる女性、乳児に母乳を与える女性は、使用を避ける必要がある。
- 4 コーヒーや炭酸飲料などの口腔内^{（注）}を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。
- 5 喫煙量を徐々に減らしながら使用する必要がある。

【問 9 6】 滋養強壯保健薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ビタミンB₂ 主薬製剤は、塩酸チアミン等が主薬として配合された製剤で、神経痛、筋肉痛、関節痛、手足のしびれ、便秘、眼精疲労、脚気の症状の緩和等に用いられる。
- 2 ビタミンE 主薬製剤は、酢酸レチノール等が主薬として配合された製剤で、目の乾燥感、夜盲症の症状の緩和、また妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時等に用いられる。
- 3 アミノエチルスルホン酸は、筋肉や脳、心臓、目、神経等、体のあらゆる部分に存在し、細胞の機能が正常に働くために重要な物質である。また肝臓機能を改善する働きがあるとされる。
- 4 ガンマ - オリザノールは、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。

【問 9 7】 漢方に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 漢方薬は、使用する人の体質や症状その他の状態に適した処方を既成の処方の中から選択して用いられる。
- 2 中医学は、日本において発展してきた漢方医学と基は同じであるが、中国において発展してきたものであり、漢方医学とは考え方が異なっている。
- 3 患者の証（体質及び症状）は、漢方の考え方として重要なもののひとつである。
- 4 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合は、生後3ヶ月未満の乳児にも使用することができる。

【問 9 8】 殺菌消毒薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 クレゾール石^{けん}鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して比較的広い殺菌消毒作用を示す。
- 2 マーキュロクロムは、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化^{のう}膿菌）、真菌、結核菌に対する殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対しては効果がない。
- 3 ポビドンヨードは、ヨウ素による酸化作用により、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- 4 グルコン酸クロルヘキシジンは、一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌に対する殺菌消毒作用はない。

【問 9 9】 次の記述にあてはまる生薬はどれか。

サルノコシカケ科のマツホドの菌核を用いた生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。

- 1 ブシ
- 2 カッコン
- 3 サイコ
- 4 ブクリョウ
- 5 サンザシ

【問100】 殺虫剤・忌避剤を使用する際の一般的な留意事項に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 殺虫剤を噴霧・散布する際は、なるべく防護ゴーグル、マスク、手袋、肌の露出の低い衣服を着用し、定められた用法・用量を厳守して使用する。
- b 基本的に、忌避剤は漫然な使用を避け、蚊、ブユ（ブヨ）等が多い戸外での使用等、必要な場合にのみ使用することが重要である。
- c ディートを含有する忌避剤（医薬品及び医薬部外品）は、生後6ヶ月未満の乳児への使用を避けることとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用する人に、その製品の概要を分かりやすく説明することを目的として、効能・効果、用法・用量又は成分・分量等からみた製品の特徴が、必ず記載されていなければならない。
- b 薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質が簡潔な分かりやすい表現で示されたもので、販売名に薬効名が含まれているような場合でも、薬効名は記載しなければならない。
- c 添付文書は開封時に一度目を通されれば十分というものでなく、実際に使用する人やその時の状態等によって留意されるべき事項が異なってくるため、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。
- d 使用上の注意は、枠囲い又は文字をゴシック体にするなど他の記載事項と比べて目立つように記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正

【問102】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」等として記載されている。
- b 医療機関で治療を受けている人が、治療のために処方された医薬品の使用を自己判断で控えることができるように、「本剤を使用（服用）している間は、次の医薬品を使用（服用）しないこと」の項に「医療機関で処方された医薬品」として記載されている。
- c 副作用又は副作用により誘発される事故の防止を図るため避けるべき事項のうち、小児では通常当てはまらない内容は、小児に使用される医薬品の添付文書に記載されない。
- d 局所に適用する医薬品は、患部の状態によっては症状を悪化させたり、誤った部位に使用すると有害事象を生じたりするおそれがあるので、それらに関して「してはいけないこと」の項目で使用を避けるべき患部の状態、適用部位等に分けて、簡潔に記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問103】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添付文書の記載について、重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所が明示されている。
- b その医薬品に眠気が引き起こされる成分が配合されている場合は、重大な事故につながるおそれがあるため、「服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと」の旨がその症状の内容とともに記載されている。
- c 摂取されたアルコールによって、医薬品の作用の増強が予測される場合には、「服用時は飲酒しないこと」の旨が記載されている。
- d 使用方法や効能・効果が異なる医薬品同士で、同一成分又は類似の作用を有する成分が重複することがあっても、個々の作用が医療用医薬品に比べて緩和なため、併用に関する注意喚起は不要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	誤

【問104】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「してはいけないこと」として、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について記載されている。
- b 「次の診断を受けた人」として、現に医師の治療を受けているか否かによらず、その医薬品が使用されると状態の悪化や副作用等を招きやすい基礎疾患等が示されている。
- c 医薬品を使用したあとに副作用と考えられる症状を生じた場合に関する記載については、まず、まれに発生する重篤な副作用について副作用名ごとに症状が記載され、その後続けて、一般的な副作用について発現部位別に症状が記載される。
- d 配合されている成分からみて、アレルギー性の副作用を生じるおそれのある医薬品の場合、「相談すること」の項に「本人または家族がアレルギー体質の人」、「薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人」の旨、注意事項が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤

【問105】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「用法及び用量」には、年齢区分、1回用量、1日の使用回数等について一般の生活者に分かりやすく、表形式で示されるなど工夫して記載されている。
- b 「病気の予防・症状の改善につながる事項（いわゆる「養生訓）」は、症状の予防・改善につながる事項について一般の生活者に分かりやすく示すために、必ず記載しなければならない。
- c 「効能または効果」には、一般の生活者が自ら判断できる症状、用途等が示されている。なお、「適応症」として記載されている場合もある。
- d 「成分及び分量」には、有効成分の名称及び分量が記載されているが、添加物として配合されている成分は掲げられることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	誤

【問106】 添付文書等において、「相談すること」の項目中に、「高齢者」と記載することとされている一般用医薬品と、その理由に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	[一般用医薬品]	[理由]
1	塩酸ピレンゼピンが配合された内服薬	－ アルミニウム脳症、アルミニウム骨症を生じるおそれがあるため。
2	塩酸プソイドエフェドリンが配合された内服薬	－ 外国において、ライ症候群の発症との関連性が示唆されているため。
3	アミノ安息香酸エチルが配合された内服薬	－ メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため。
4	トラネキサム酸が配合された内服薬	－ 出血傾向を増悪させるおそれがあるため。
5	臭化水素酸スコポラミンが配合された内服薬	－ 緑内障の悪化、口渇、排尿困難又は便秘の副作用が現れやすいため。

【問107】 次の記述にあてはまる一般用医薬品はどれか。

使用中又は使用後しばらくしてから重篤な光線過敏症が現れることがあるため、添付文書等において、「本剤の使用中は、天候にかかわらず、戸外活動を避けるとともに、日常の外出時にも本剤の塗布部を衣服、サポーター等で覆い、紫外線に当てないこと。なお、塗布後も当分の間、同様の注意をすること」の旨を記載することとされているもの。

- 1 サリチル酸が配合された角質軟化薬
- 2 ヒドロコルチゾンが配合された外皮用薬
- 3 ケトプロフェンが配合された外用鎮痛消炎薬
- 4 硝酸ミコナゾールが配合されたみずむし・たむし用薬

【問108】 次の成分のうち、中枢神経系の興奮作用により、てんかんの発作を引き起こすおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書等において、てんかんの診断を受けた者は、その成分が含まれる医薬品を使用する前に、専門家に相談するよう注意を求めているものはどれか。

- 1 塩酸トリメトキノール
- 2 塩酸パバベリン
- 3 メキタジン
- 4 ジプロフィリン
- 5 クロモグリク酸ナトリウム

【問109】 次の成分のうち、その成分が含まれることによって、医薬品の添付文書等の「してはいけないこと」の欄に、「本剤または牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人は使用しないこと」の旨、注意を求めているものはどれか。

- 1 亜硫酸ナトリウム
- 2 タンニン酸アルブミン
- 3 ヒアルロン酸ナトリウム
- 4 ホウ酸

【問110】 次のうち、鬱^{うっ}血性心不全、心室頻拍の副作用が現れることがあるため、一般用医薬品の添付文書等において、「症状があるときのみの服用にとどめ、連用しないこと」の旨、記載されているものはどれか。

- 1 芍薬甘草湯しやくやくかんそうとう
- 2 大黃牡丹皮湯だいおうぼたんびとう
- 3 防風通聖散ぼうふうつうしょうさん
- 4 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこかりゅうこつぼれいとう
- 5 黄連解毒湯おうれんげどくとう

【問 1 1 1】 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、適切な保管がなされないと化学変化や雑菌の繁殖等を生じることがあるため、錠剤、カプセル剤、散剤は冷蔵庫内での保管が適当である。
- b 移し替える容器が湿っていたり、汚れたりしていなければ、医薬品を他の容器に移し替えても差し支えない。
- c 乳・幼児は好奇心が強く、すぐに手を出して口の中に入れることがあるため、誤飲事故が多く報告されている。そのため、小児の手の届かないところに保管することが適当である。
- d 眼科用薬では、複数の使用者間で使い回されると、万一、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがあるため、他の人と共用しないことが適当である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	正	正

【問 1 1 2】 一般用医薬品の製品表示及びその読み方に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 包装中に封入されている医薬品だけが取り出され、添付文書が読まれないといったことがないように、「使用にあたって添付文書をよく読むこと」等、添付文書の必読に関する事項が外箱等に記載されている。
- b 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後3年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品においては、法的な表示義務はない。
- c 「保管及び取扱い上の注意」の項のうち、医薬品の保管に関する事項は添付文書に記載されているため、外箱等には記載されない。
- d 使用期限はいったん開封されたものについても、その期日まで品質を保証しているため、購入者等から質問等がなされた時に開封した後の保管状況を考慮する必要はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	正

【問 1 1 3】 医薬品の安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」では、添付文書情報、厚生労働省より発行される「医薬品・医療機器等安全性情報」等が掲載されている。
- b 独立行政法人医薬品医療機器総合機構では、医薬品・医療機器の安全性に関する情報が発出されたときに、ホームページへの掲載は行っているが、電子メールによる配信サービスは行っていない。
- c 厚生労働省においては、医薬品、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報を原則毎月とりまとめ、「医薬品・医療機器等安全性情報」として、広く医薬関係者向けに情報提供を行っている。
- d 医薬品又は医療機器について重要かつ緊急な情報伝達が必要な場合に、厚生労働省からの指示に基づいて、製造販売元の製薬企業等からその医薬品又は医療機器を取り扱う医薬関係者に直接配布されるものを「緊急安全性情報」と言う。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	正

【問 1 1 4】 副作用情報等の収集に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、医薬品の使用、販売等に携わり、副作用等が疑われる事例に直接接する病院及び診療所のみから情報を収集することにより、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- b 製薬企業等は、その製造販売をし、又は承認を受けた医薬品について、その副作用等によるものと疑われる健康被害の発生等を知った時は、その旨を定められた期限までに都道府県知事に報告することが義務づけられている。
- c 薬局開設者、医療施設の開設者、医薬品の販売業者又はそれらに従事する医薬関係者は、薬事法第 77 条の 3 第 2 項により、製薬企業等が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。
- d 副作用・感染症報告制度において、医薬品等との関連が否定できない感染症に関する症例情報の報告や研究論文等について、製薬企業に対して国への報告義務を課している。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 1 1 5】 医薬品等による健康被害が疑われる場合の、医薬関係者の報告に関する次の記述のうち、適当でないものはどれか。

- 1 報告様式の記入欄のうち、情報不足で記入できない部分があったので、厚生労働大臣への報告を行わなかった。
- 2 医薬品の誤用によるものと思われる健康被害だったが、厚生労働大臣への報告を行った。
- 3 化粧品による健康被害について、安全対策上必要があると認められたため、「医薬品安全性情報報告書」を用いて厚生労働大臣への報告を行った。
- 4 健康食品によると疑われる健康被害について、最寄りの保健所に連絡を行った。

【問 1 1 6】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

健康被害者が (a) に給付請求を行うと、その健康被害が医薬品の副作用によるものかどうかなど、医学的薬学的判断を要する事項について (b) への諮問と、それに対する答申を経て、(c) が判定した結果に基づいて、医療費、障害年金などの各種給付が行われる。

	a	b	c
1	厚生労働大臣	(独) 医薬品 医療機器総合機構	薬事・食品衛生審議会
2	製薬企業	(独) 医薬品 医療機器総合機構	薬事・食品衛生審議会
3	製薬企業	薬事・食品衛生審議会	厚生労働大臣
4	(独) 医薬品 医療機器総合機構	薬事・食品衛生審議会	厚生労働大臣
5	(独) 医薬品 医療機器総合機構	厚生労働大臣	薬事・食品衛生審議会

【問 1 1 7】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の使用による副作用被害への救済給付の請求に当たっては、医師の診断書、要した医療費を証明する書類(領収書等)などのほか、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者の作成した販売証明書等が必要となる。
- b 給付の種類としては医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金等があり、すべて請求期限は定められていない。
- c 殺虫剤・殺鼠剤、殺菌消毒剤は救済制度の対象とならないが、一般用検査薬は救済制度の対象となる。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	正

【問 1 1 8】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

救済給付業務に必要な費用は、(a) については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第 19 条の規定に基づいて、製薬企業から年度ごとに納付される拠出金が充てられるほか、(b) については、その (c) 相当額は、国庫補助により賄われている。

	a	b	c
1	事務費	医療費	3分の1
2	事務費	給付費	2分の1
3	給付費	事務費	2分の1
4	給付費	事務費	3分の1
5	給付費	医療費	4分の1

【問 1 1 9】 医薬品 PLセンターに関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a) により開設された医薬品 PLセンターは、消費者（一般用医薬品を使用する生活者のほか、医療関係者も含む）が、医薬品又は医薬部外品に関する苦情について (b) と交渉するに当たって、公平・中立な立場で申立ての相談を受け付け、裁判に (c) 解決に導くことを目的としている。

	a	b	c
1	(財) 友愛福祉財団	(独) 医薬品医療機器総合機構	よる
2	(財) 友愛福祉財団	製造販売元の企業	よらない
3	日本製薬団体連合会	厚生労働省	よらない
4	日本製薬団体連合会	製造販売元の企業	よらない
5	(独) 医薬品医療機器総合機構	厚生労働省	よる

【問 1 2 0】 一般用医薬品の安全対策に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

小柴胡湯しょうさいこうとうによる (a) は、1991 年 4 月以降、使用上の注意に記載されていたが、その後、小柴胡湯しょうさいこうとうと (b) 製剤の併用による (a) が報告されたことから、1994 年 1 月、併用を禁忌とする旨、使用上の注意の改訂がなされた。しかし、それ以降も慢性肝炎患者が小柴胡湯しょうさいこうとうを使用して (a) を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996 年 3 月、厚生省（現在の厚生労働省）より関係製薬企業に対して (c) が指示された。

	a	b	c
1	間質性肺炎	インターフェロン	緊急安全性情報の配布
2	間質性肺炎	塩酸フェニルプロパノールアミン	製品の回収
3	急性腎不全	インターフェロン	緊急安全性情報の配布
4	急性腎不全	塩酸フェニルプロパノールアミン	効能・効果の見直し
5	鬱血性心不全 <small>うっ</small>	インターフェロン	製品の回収